

Intune 設定配布マニュアル

本書は、Microsoft Intune を通して xSync Classroom の設定を配布する手順書となります。

Intune 設定配布マニュアル

PVCXC-M017-A

本書の内容は改良の為、予告無く変更する場合があります。

2026/02/25 一部改訂

目次

概要	2
xSync Classroom での設定.....	2
配布用ファイルの作成	3
Intune 配布用ファイルの作成	4
Intune への適用	4

概要

Microsoft Intune を通じ xSync Classroom に適用するには以下の手順が必要となります。

1. xSync Classroom にて配布したい設定を行います。
2. 設定完了後、「配布設定作成ツール」で配布用のファイル作成を行います。
3. 配布用のファイルから Intune 配布用のファイルを作成します。
もしくは配布用のファイルを弊社へ提供いただければ、Intune 配布用のファイルを返送いたします。
4. Intune 配布用のファイルを Intune に適用します。

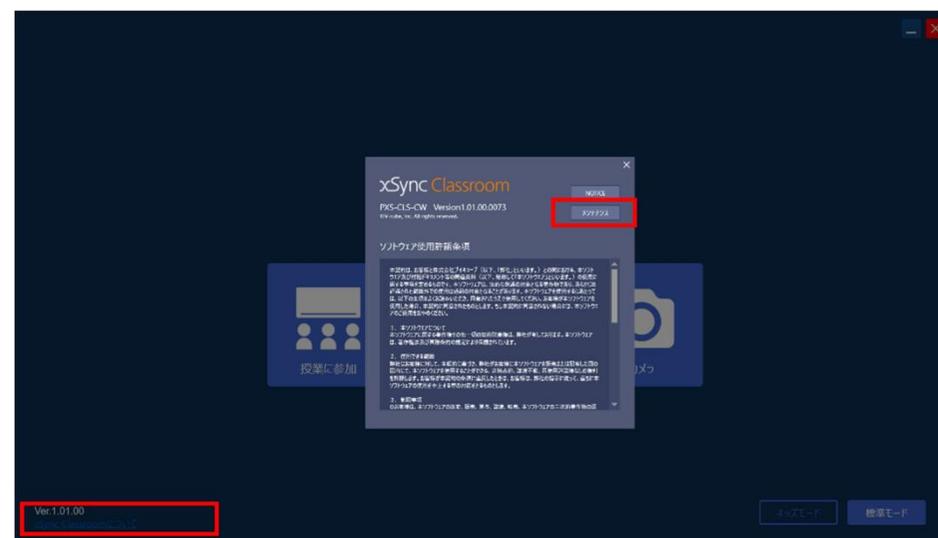
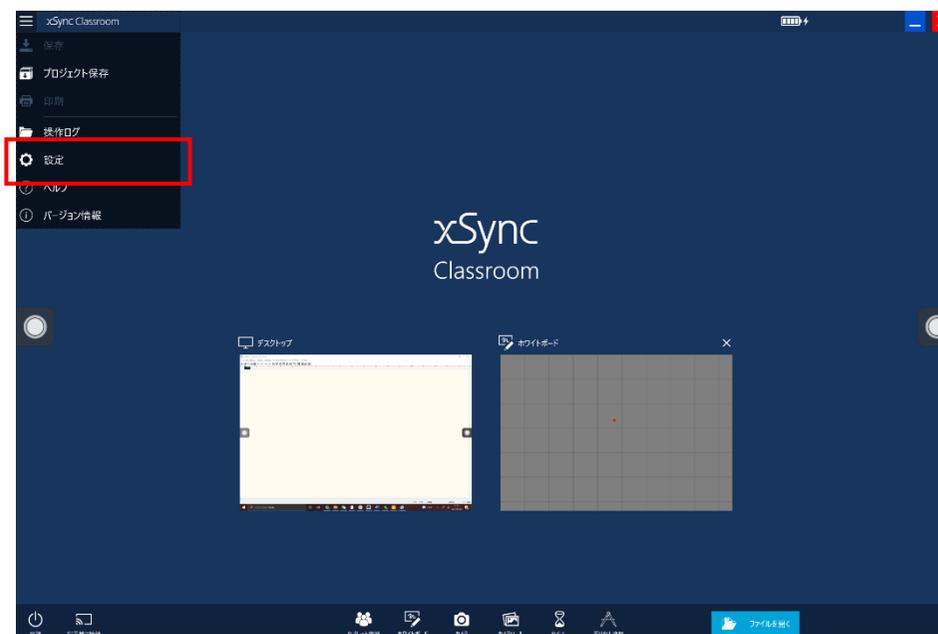
本書では上記手順を順に説明いたします。

xSync Classroom での設定

1. xSync Classroom をインストールします。
2. インストール後、教員機はライセンスキーを入力し起動を行います。生徒機の場合、ライセンスキーの入力は不要です。

補足 • Intune を使用することで、ライセンスキーの入力まで行った教員機のインストーラ配布、及び生徒機のインストーラ配布が可能です。詳細は「Intune 導入手順書」をご確認ください。

3. 教員機の場合、メニュー→設定より各種設定を行います。生徒機の場合、[xSync Classroom について] → [メンテナンス] → パスワード→設定より各種設定を行います。



配布用ファイルの作成

1. 設定の完了、Classroom を終了しツールを起動します。
ツールは [スタート] → [xSync Classroom] もしくは [xSync Classroom Client] → [Intune 配布設定作成ツール] より起動します。



2. ツールの起動後、配布したい設定のラジオボタンを設定します。
デフォルトは全て [配布する] となります。

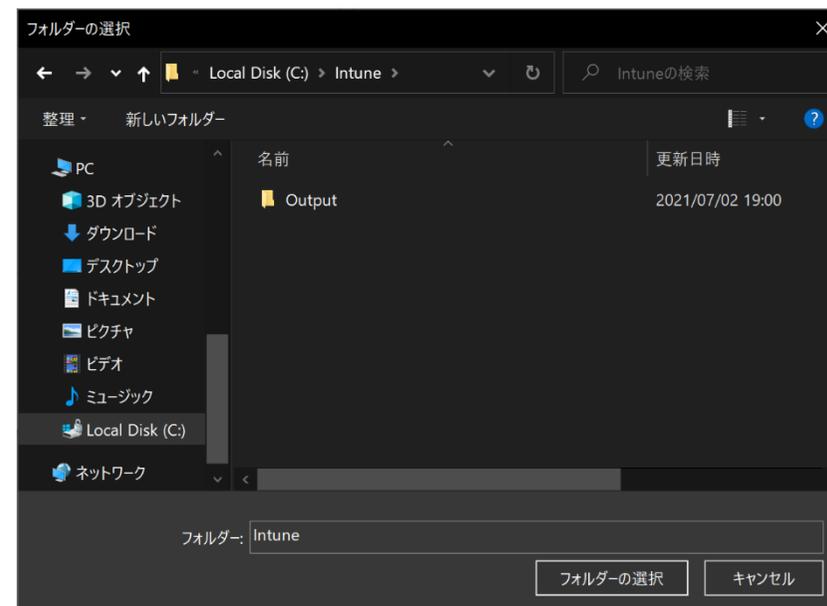
補足

- ホスト(教員機)の各設定は、
 - ①共通設定
→通信ポートやクライアントの更新設定等「管理者設定」で行う端末共有の設定ファイル。
 - ②ユーザー設定
→一般設定やタブレット学習の設定ファイル。
 - ③WebDAV 設定
→クラウドの「WebDAV」を設定した際のファイル。
となります。
- クライアント(生徒機)の各設定は、
 - ①共通設定
→ブラウザー設定やネットワーク設定等、端末で共有されるファイル。

②ユーザー設定

→資料箱/手動保存フォルダやログイン名等、ユーザー情報に関わる設定ファイル。
となります。

3. [ホスト設定作成]、[クライアント設定作成]、[ホスト・クライアント設定作成]のいずれかをクリックすると、エクスポート先の選択画面が表示されます。



選択したフォルダに[Host][Client]フォルダが生成されます

名前	更新日時	種類
Host	2021/07/05 16:39	ファイル フォルダ
Client	2021/07/05 16:39	ファイル フォルダ

Intune 配布用ファイルの作成

補足 • 「配布用ファイルの作成」で作成されたファイルを弊社に提供いただくことで、Intune 配布用の作成を行います。
こちらは手動で Intune 配布用のファイルを作成する一例を記載しています。

1. 「IntuneWinAppUtil.exe」を PowerShell で起動します。
exe については以下リンクより内容を確認ください。
「Microsoft Intune にアップロードする Win32 アプリを準備する」 - Microsoft Docs
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/mem/intune/apps/apps-win32-prepare>
2. PowerShell で実行後、以下の指定を行います。
Source Folder…出力した「Host」または「Client」フォルダを指定します。
Setup File…「Host」の場合は”FileCopy_Host.bat”、
「Client」の場合は” FileCopy_Client.bat”を指定します。
Output Folder…任意のフォルダを指定します。
Specify Catalog Folder…N を指定します。

```
PS C:\> .\IntuneWinAppUtil.exe
Please specify the source folder: C:\Output\Host
Please specify the setup file: FileCopy_Host.bat
Please specify the output folder: C:\Intune
Do you want to specify catalog folder (Y/N)?N
```

Output で出力したフォルダに”FileCopy_Host.intunewin”
 (“FileCopy_Client.intunewin”)が出力されます。

Intune への適用

1. 出力された intunewin ファイルを Intune に登録します。
アプリ情報は任意のものを入力します。

① アプリ情報 ② プログラム ③ 必要条件 ④ 検出規則 ⑤ 依存関係 ⑥ 置き換え (プレビュー) ⑦ 割り当て

ファイルの選択 * ①

名前 * ①

説明 * ①

[説明を編集します](#)

発行元 * ①

1. プログラムのインストールコマンド、アンインストールコマンドにはバッチの名前を入力します。
インストールの処理は「ユーザー」を選択します。

① アプリ情報 ② プログラム ③ 必要条件 ④ 検出規則 ⑤ 依存関係 ⑥ 置き換え (プレビュー) ⑦ 割り当て

アプリをインストール/アンインストールするコマンドを指定します:

インストール コマンド * ①

アンインストール コマンド * ①

インストールの処理 ① システム ユーザー

2. 必要条件は任意のものを入力し、次に進みます。

3. 検出規則には任意のものを入力してください。
参考として Intune で設定配布済みの端末を検出する規則は下記ようになります。

パス Host は、

```
"%APPDATA%\PioneerVC\xSync Classroom\Host\Intune"
```

パス Client は、

```
"%APPDATA%\PioneerVC\xSync Classroom\Client\Intune"
```

ファイルまたはフォルダーは、下記のようなバッチ内に記載された GUID ファイル名を指定します。

1b6a6bd9-6339-429c-b71b-8dfe195cce99

GUID はツールでバッチファイルを作成する度に変わります
ので都度バッチファイルの内容を確認して変更する必要があります。

```
@REM GUID↓
If not exist "%APPDATA%\PioneerVC\xSync Classroom\Client\Intune" mkdir "%APPDATA%\PioneerVC\xSync Classroom\Client\Intune"
type nul > "%APPDATA%\PioneerVC\xSync Classroom\Client\Intune\5e254dbf-74ff-4638-962e-6fe6230ac3be"↓
```

バッチファイル内の GUID 例

検出規則 ×

このアプリのプレゼンスを示す規則を作成します。

規則の種類 * ⓘ

パス * ⓘ

ファイルまたはフォルダー * ⓘ

検出方法 * ⓘ

64 ビット クライアント上で 32 ビット アプリに関連付ける ⓘ